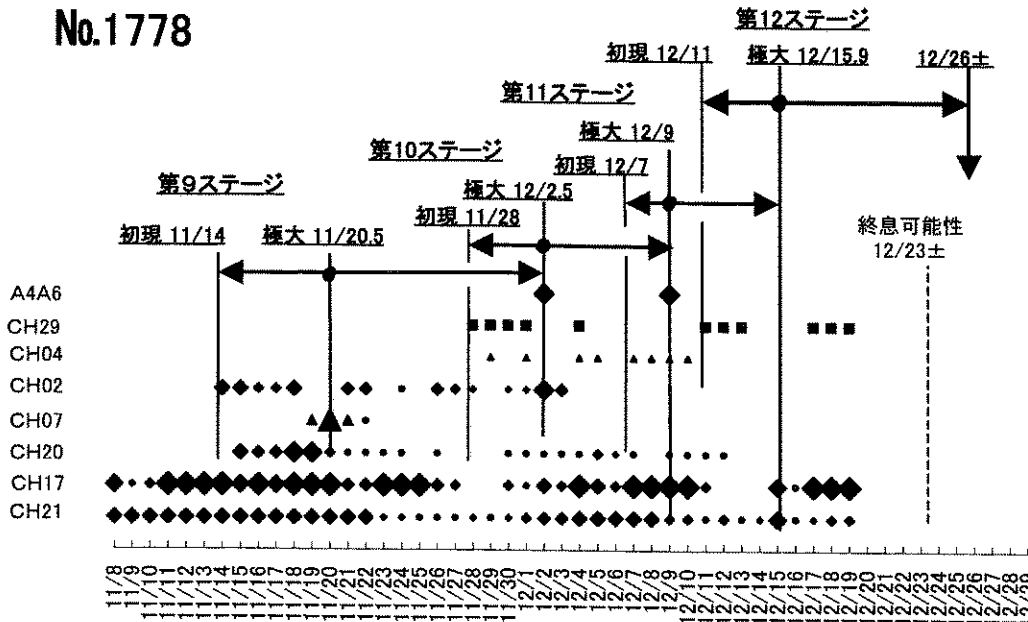


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 現況報告 若干の修正・12/23±に終息するか確認必要

No.1778



- ①【12月15.5日極大認識の場合】  
12/22.1 終息の場合=12/24  
12/22.9 終息の場合=12/25  
12/23.6 終息の場合=12/26

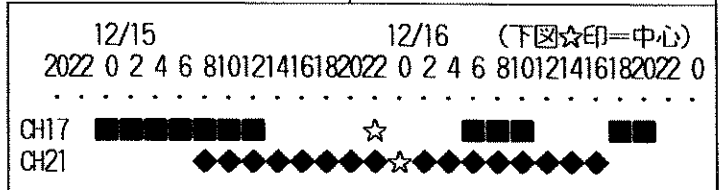
- ②【12月16.0日極大認識の場合】  
12/22.2 終息の場合=12/24  
12/23.0 終息の場合=12/25  
12/23.7 終息の場合=12/26

※極大が12/15.5 or 16.0 でも終息が下記の場合 発生日  
12/22 未明 =12/24±  
12/22 深夜~23未明=12/25±  
12/23 午後~夜 =12/26±  
12/24 朝~夕刻 =12/27±

- ③ 初現 極大  
12/11-12/15.3の場合=12/24±  
12/11-12/15.7の場合=12/25±  
12/11-12/16.0の場合=12/26±

No.1778前兆に関する前回の報告では、推定通り12月15日にピークが出現したこと、継続前兆が微弱であること等から、第12ステージを「初現=12/11 極大=12/15.5」と認識し、第12ステージが最終ステージである場合は、12月24日±発生の可能性が示唆されること。これが正しい場合は12月22日±に前兆終息が確認される筈で、この終息の確認が重要と報告致しました。

その後の前兆状況は上図の通りで、CH21の微弱前兆のみが継続すると思われましたが、CH17に糸状特異が継続。CH29-BT が弱く出現、CH21は微弱のまま継続。と云う状況で推移しています。CH29-BT は、新たな前兆初現ではなく、12/15 極大を挟んだ出現形態に見えますし、CH21の特異は弱いままです。CH17の糸状特異のみが顕著に継続しています。16日段階とは少々異なりますが、新たなステージが出現する認識根拠はありませんし、新たなピークもありませんので、認識は大きく変わりません。但



し、右上に列記の③の通り、極大日が半日弱スただけで、推定発生日が1日ズルことになります。上枠内は12/15~16のCH17特異とCH21糸状特異の出現時間帯状況の模式図です。これを見ますと、15日昼=15.5とするよりは、半日後の15.9又は16.0を極大とする方が良いと認識しました。従って初現~極大からは、12月26日±の可能性が示唆されます。前兆極大と終息との関係は、右上列記①及び②の通り、極大が半日ズしても、ほぼ同じ時期が求められることが確認できます。

- ◆推定領域：右図 太線領域内=大枠推定領域  
斜線領域=可能性が考え易い推定領域  
(※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解))
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：12月26日±  
※但し12月23日±に前兆終息確認が条件  
実際の終息を確認して修正の可能性有  
(※12月25日段階で前兆継続の場合又は新たな前兆  
や極大出現の場合は発生日修正の必要⇒続報予定)
- ◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震(陸域)
- ◇推定発生時刻：午前09時± (又は午後06時±3)



従って、上列記※の通り、12/22未明終息の場合は12月24日発生が示唆されますが、22日深夜~23日未明終息の場合は12月25日。23日午後~夜に終息となった場合は12月26日を示すこととなります。誤差を含めても、現状の認識が正しい場合は、12月24日夜迄には前兆終息が確認できる可能性有。25日段階で前兆継続の場合は7-9 を確認し再考予定です。